

京都教育大学 F D ニュース

No. 55

2010 年 11 月 22 日

F D (ファカルティ・ディベロップメント) 委員会

平成 22 年度前期の学部授業アンケート結果について

前期授業アンケートにご協力いただき、有り難うございました。実施結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

【調査の概要】

平成 22 年度前期は、例年と同様の設問形式で実施いたしました。事前説明において、とくに Q21～Q23 のアンケート裏面の自由記述欄への記入を積極的に薦め、学生からの生の声を具体的に把握できるよう努めました。

実施期間：平成 22 年 7 月 12 日 (月) ～ 29 日 (木)

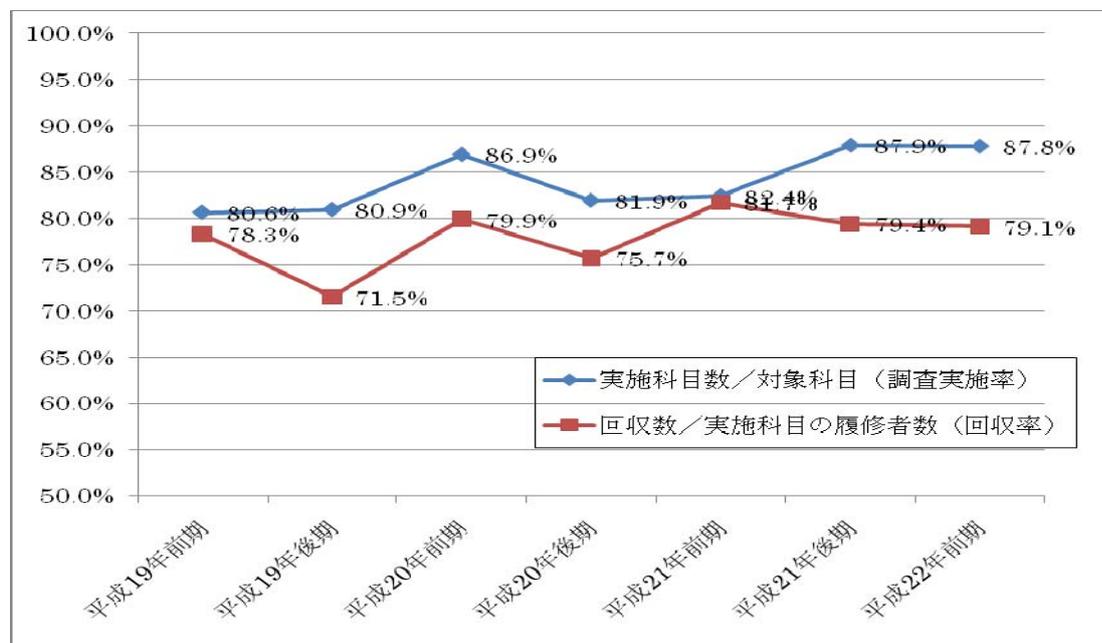
対象科目数：410

実施科目数：360 (実施率 87.8%)

実施科目の履修者数：13,433 名

回答者数：10,630 名 (回収率 79.1%)

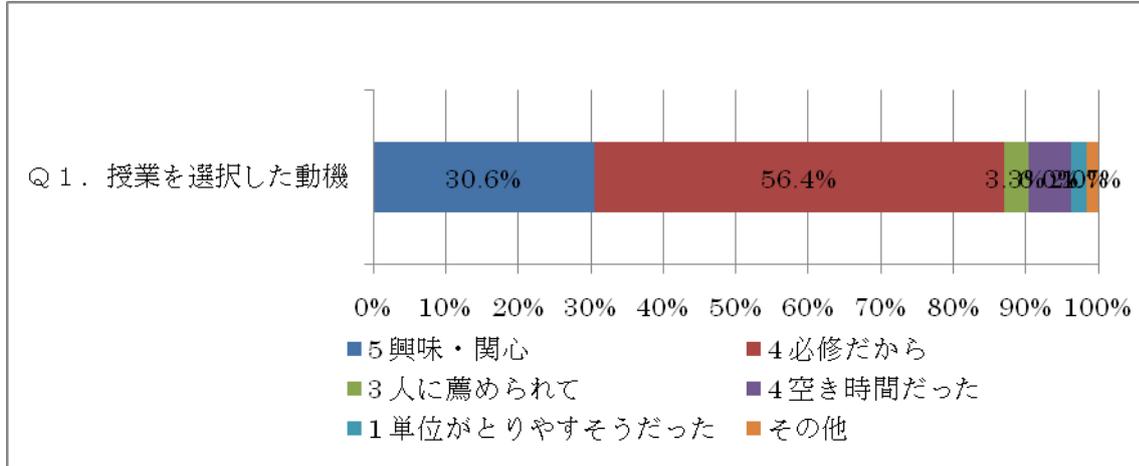
過去 3 年の実施率および回収率の推移をみてみますと、授業アンケート実施率が 9 割弱となり、授業改善に向けた F D に対する理解が深まっています。また、学生の回答率も 8 割に達し、学生側の関心も高くなっています。



【結果の概要】

(1) Q1「授業を選択した動機」(複数回答 N=11753 を100%に換算)

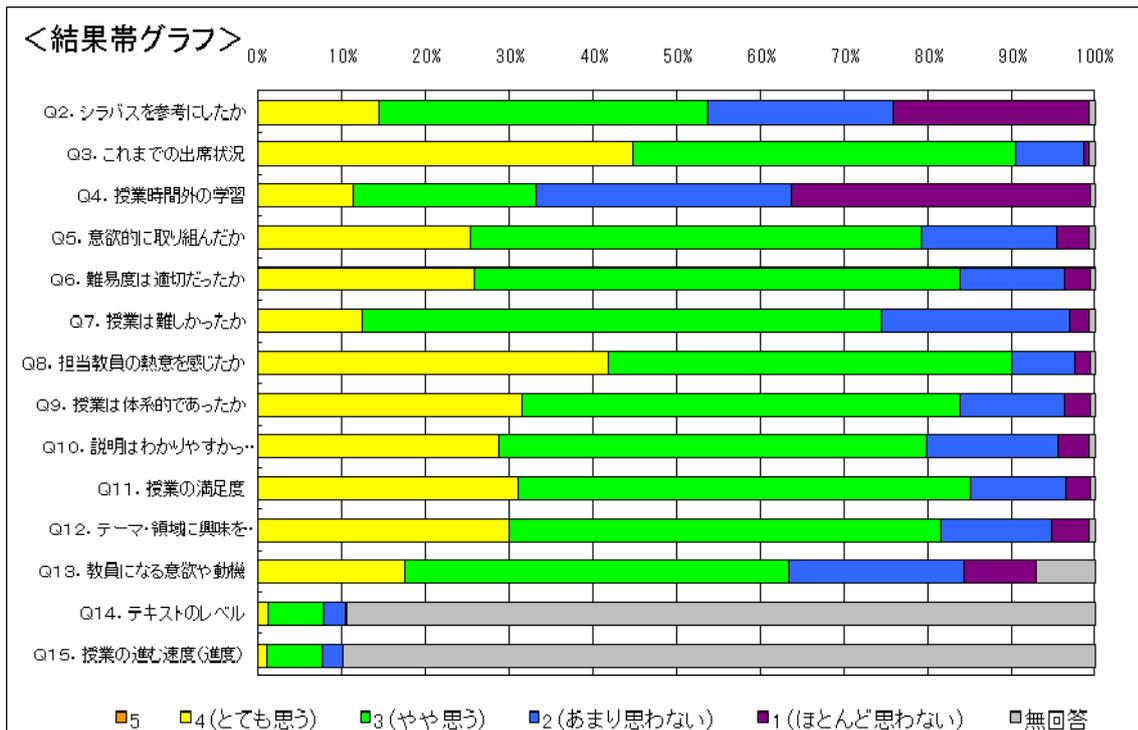
授業を選択した動機をみていくと、「必修だから」56.4%が最も多く、次いで「興味・関心」30.6%となっています。



(2) 全体設問の集計結果

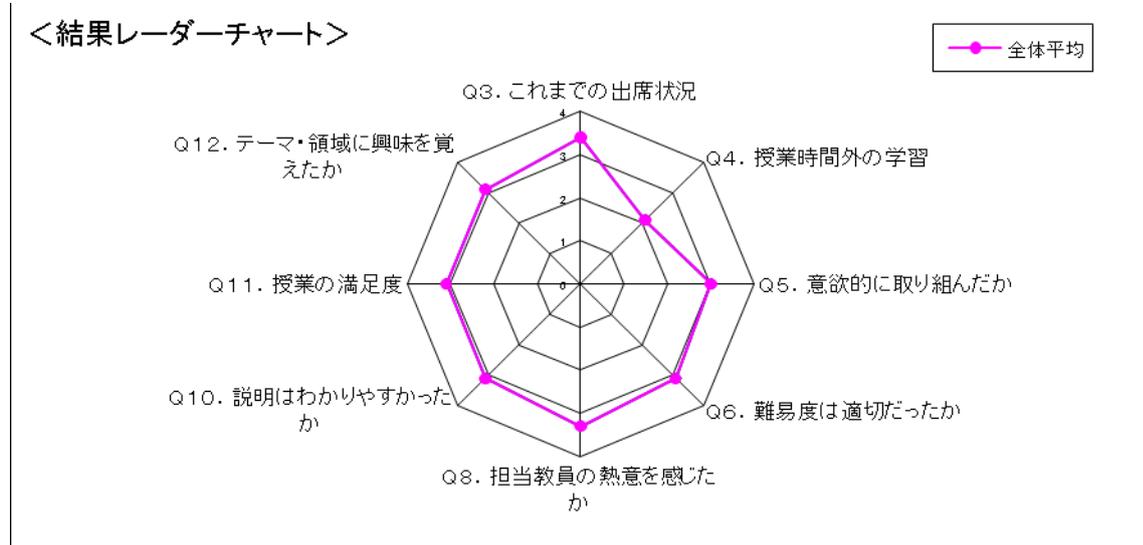
Q2～Q15までの集計結果は下記の通りです。

「4とても思う」と「3やや思う」という肯定的かつ意欲的な回答の割合をみていくと、Q3の出席状況で学生の出席率は高く、またQ8の授業に対する担当教員の熱意を感じているという結果となっています。その一方で、Q2受講にあたってシラバスを参考にした割合は、50%強に、またQ4授業時間以外の学習を1時間以上したものは30%強にとどまり、授業には出席しているものの、計画性や準備性がやや乏しい面が見受けられました。



(3) 各項目の比較検討

下の図は、Q3 から Q12 までの各項目の分布 (Q7、Q9 を除く) をみたものです。過年度と比較しても、その傾向に大きな変化はみられません。Q4 授業時間外の学習以外で、平均値 2.1 (理論値 1-4 点) と相対的に低くなっています。

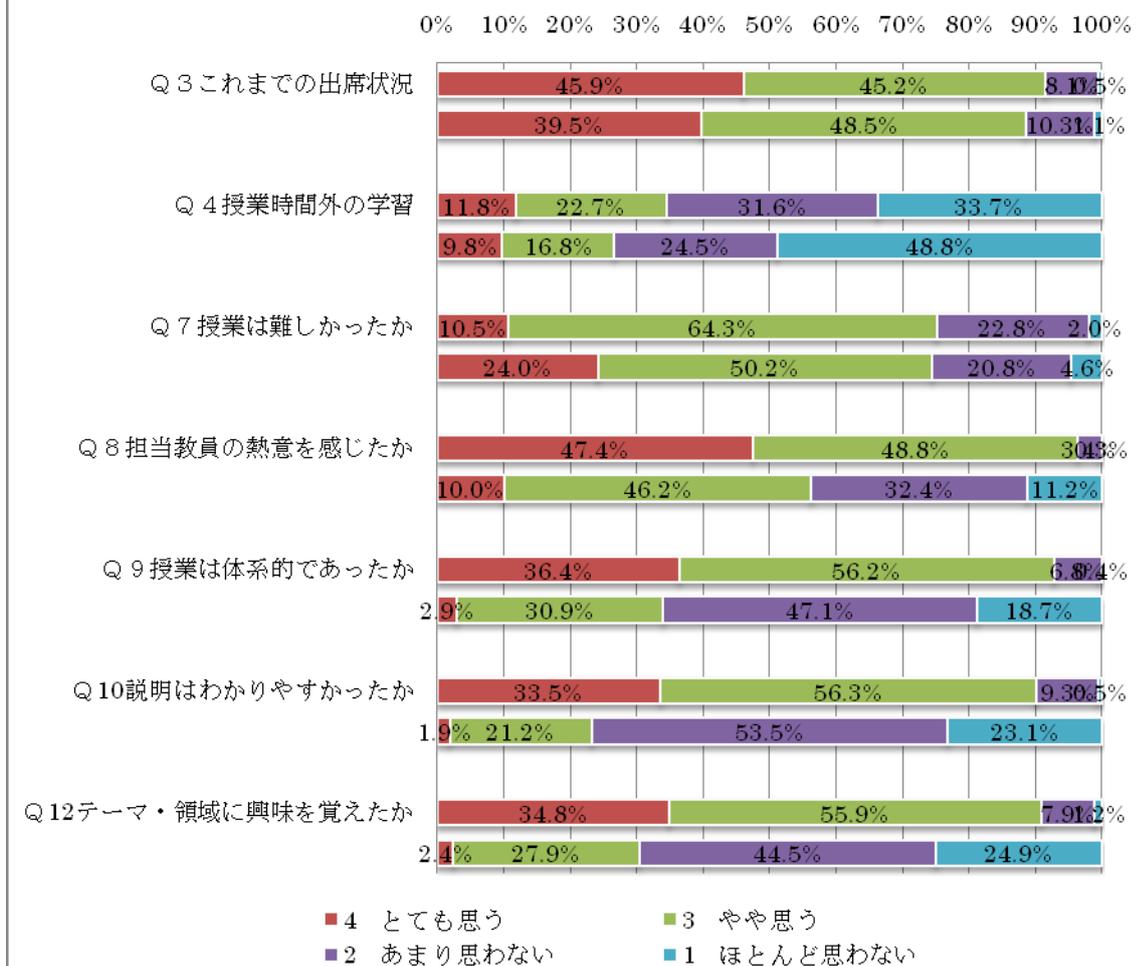


(4) 授業の満足度別にみた学生の意識・意欲

下の図は、Q11 で授業を受講しての満足度を 2 群に分けて、「4 とても満足」「3 やや満足」の満足した群と、「2 やや不満」「1 とても不満」の満足しなかった群間で、Q3~Q12 (Q5、Q6 を除く) にどのような差異があるかをみたものです。

その結果、満足した群と満足しなかった群それぞれのポイントを見ていくと、Q8 担当教員の熱意 (満足群 96.1% : 不満群 56.2%)、Q9 授業が体系的であったか (満足群 92.6% : 不満群 33.9%)、Q10 説明がわかりやすかったか (満足群 89.8% : 不満群 23.1%)、Q12 テーマ・領域に興味を覚えたか (満足群 90.7% : 不満群 30.4%) という結果となっており、担当教員の熱意を感じ、授業の説明がわかりやすく体系的であると理解し、テーマや領域に興味関心をもつことが授業の満足感につながるということが明らかとなりました。

授業の満足度別にみた学生の意識・意欲の比較
(グラフ 上は満足した群/下は満足しなかった群)



(5) Q16~Q20 の教員追加設問

教員追加設問の使用率をみますと、Q16は2.9%、Q17は2.5%、Q18は2.0%、Q19は1.3%、Q20は1.3%と低率で、残念ながら3%未満にとどまっています。今後、活用方法などを工夫していくことが必要と考えられます。

FD研修会に関する問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いします。

FD委員会委員：岡本（委員長）、水谷（副委員長）、芝原、井上、杉井